

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「麦作情報（第2号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第2号）」を送付しますので、業務の参考にして
ください。この情報はホームページ <https://www.pref.saga.lg.jp/kijji00323270/index.html> に
も随時公開しています。

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R4 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R4 (hr)	平年比 (%)
1月	1	5.3	4.1	-1.2	10.5	10.7	0.2	0.7	-1.4	-2.1	6.6	1.5	23	20.0	30.6	153
	2	5.2	6.1	0.9	10.2	13.0	2.8	0.8	0.1	-0.7	7.7	3.0	39	18.9	32.2	170
	3	5.2	3.6	-1.6	9.9	7.8	-2.1	0.8	0.4	-0.4	9.1	4.5	49	18.0	20.5	114
	4	5.0			9.7			0.7			9.9			18.0		
	5	4.8			9.5			0.4			10.0			18.7		
	6	4.8			9.7			0.3			11.9			24.2		

- ・ 1月3半旬の平均気温は、平年より1～2 程度低く推移した。
- ・ 1月に入り少雨多日照傾向で推移した。

2. 生育概況

- ・ 1月に入ると気温は低く乾燥傾向で推移していることから、麦の生育は緩慢となっている。
- ・ 好天が続いたことで、追肥や麦踏みなどの管理作業は適切に実施されている。

《麦類の生育状況（1月20日時点）》

- ・ ①11月下旬播種された圃場では、現在、本葉5葉目が展開中（4葉期）であり、有効茎の確保期です。
- ・ ②12月上旬播種された圃場では、現在、本葉4葉目が展開中（3葉期）であり、まもなく分けつ発生期です。
- ・ ③12月中下旬播種された圃場では、現在、1葉期となっています。

参考 情報田調査 1月19日調査日

品種名	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉令 L	葉色 SPAD	備考
シロガネコムギ 11月28日播種	9.2	142	3.1	39.2	・本葉4葉目が展開中 ・播種後降雨によりクラスト化（発芽揃いや不良） ・1葉目葉害（微程度）
はる風ふわり 11月20日播種	10.0	256	5.0	43.8	・本葉5葉目が展開中 ・鞘葉、1～3葉分けつ発生
サチホゴールデン 12月1日播種	8.0	253	3.9	38.9	・本葉4葉目が展開中 ・鞘葉、1葉分けつ発生 ・1葉に葉害（微程度）
はるか二条 12月1日播種	8.4	373	3.1	42.9	・本葉4葉目が展開中 ・鞘葉、1葉分けつ発生 ・1葉に葉害（微程度）
ユメサキボシ 11月16日播種	12.2	400	4.8	38.7	・本葉5～6葉目が展開中 ・鞘葉、1～3葉分けつ発生

耕種概要は麦作情報第1号参照

3. 今後の管理

- ・ 今後の管理としては、降雨による湿害を防ぐため、畝間を整備し表面排水を促すことと、生育に応じて麦踏・土入れをこまめに行う。

(1) 排水対策

- ・ 根腐れや湿害防止のために、溝（畦間）を枕部分まで通すなどして、排水溝の整備を入念に行う。
- ・ 麦類の発根力は最高分けつ期から節間伸長期（おおむね7～8葉期ころ）が最も高いとされている。今後の根の活性維持のためにも排水対策は重要な作業である。



(2) 麦踏み・土入れの実施

- ・ 麦踏みは3葉期～節間伸長期（草丈25cm程度まで）に4～5回程度行う。ただし、土壌水分が高い状態で行うと、土を踏み固まり根の働きが悪くなるので、土壌が乾燥した状態（畦間が白乾している状態）で行う。土壌が乾燥条件になれば、麦踏み作業は10日間～2週間の間隔で実施する。

茎立ち期以降は、茎折れや穂の裂傷につながり、穂数減となるため、麦踏みは行わない。

- ・ 土入れは本葉5～6葉期から、圃場の条件をみながら計画的に実施する。

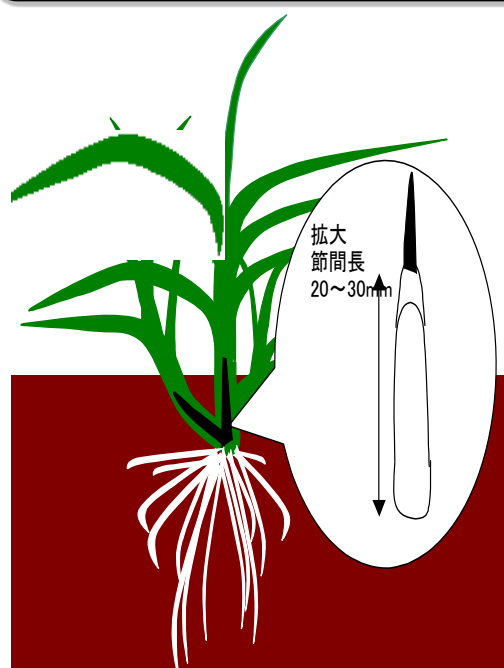
分けつ初期に土入れの量が多いと、分けつを抑制することがあるため、生育初期は少なめに、生育に応じて土入れの量を増やしていくことを基本とする。

麦踏みの効果：①耐寒性の増加 ②根の伸長促進 ③早立ち防止による凍霜害回避 など

本葉3葉期～節間伸長期（草丈25cm程度）までに4～5回程度行う

土入れの効果：①防寒 ②倒伏防止 ③無効分けつの抑制 ④雑草防除 ⑤表面排水など

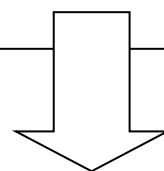
本葉5葉期～茎立ち期（草丈30cm程度）までに3回程度行う



茎立ち期

【節間伸長始期】

茎の節間が5mmとなったとき（葉齢は7葉期）、節間が伸長し、幼穂が地上部近くに上がってくる。



【茎立ち期】

節間伸長期から2週間程度経過した時で、節間が3cmに達し、幼穂が地上部に上がってきたとき。

この時期になると麦踏はできない。

幼穂凍死の危険が高くなる。

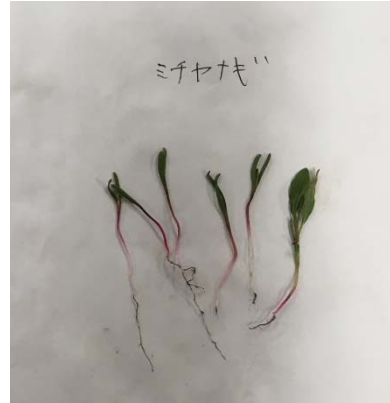
茎立ちが早いときなどは、幼穂保護のため土入れを実施する。

(3) 施肥(追肥)

- ・ 3～4葉期に行い、施用量は地区暦を参照すること。

(4) 雑草防除

- ・ 近年、ミチヤナギなどタデ科の雑草が増加しています。
- ・ 雑草が多発生している圃場では、播種直後剤(土壌処理剤)のみでは十分に抑えることができない可能性があります。発生がみられる場合は生育期処理剤との体系処理を行ってください。



< カズノコグサ と スズメノテッポウ の識別法 >

- ・ 「種子の形」や「根の色」で識別できます。
カズノコグサは「白色」で、
スズメノテッポウは「赤褐色」をしています。

	種子の形	根の色
カズノコグサ	ハート型 	白色
スズメノテッポウ	粒 	赤褐色



- ・ カズノコグサ対策は、まず圃場の乾田化を図ること。
播種直後処理剤とカズノコグサが1～3葉期までに「ハーモニー75DF 水和剤」との体系処理を行う。

・ 除草剤散布後は、以下のことに注意する

「麦踏み」は、除草剤散布後に薬剤の影響で葉が黄色くなっている場合、麦へのダメージが大きいので控える。また、除草剤散布直前に麦踏みをすると茎葉が痛み、薬害を生じる場合がある。

「土入れ」を、除草剤散布後すぐ行くと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。(特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける)

●表一除草剤一覧表と使用方法

薬 剤 名		使用時期	使用量（10a当り）
耕起前 処理	プリグロックスL	播種前（元草除草剤）	水 100～150ℓ 薬量 600～1,000 ml
播種直後処理 （土壤処理剤）	ボクサー乳剤	播種直後～麦2葉期	水 100ℓ 薬量 400～500ml
	トレファノサイド粒剤 2.5	播種直後～発芽前	4～5 kg
	トレファノサイド乳剤	播種直後～発芽前	水 100ℓ 薬量 200～300ml
	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期	水 100ℓ 薬量 60～80ml
生育期 処理	ハーモニー75DF 水和剤	・麦1葉期～節間伸長期まで ・スズメノテッポウ（5葉期まで） ・カズノコグサ（1～3葉期） 土壤処理剤との体系処理	水 100ℓ 薬量 10g
	アクチノールB乳剤	・穂ばらみ期まで（雑草生育初期） ・ヤエムグラ（3～4葉期まで）	水 70～100ℓ 薬量 100～200ml

（5）鳥獣害対策（カモによる食害）

- ・右の写真のような被害がみられたら「カモ」による食害である。
麦の地際部まで草刈機ではらったように切れている
周辺に鳥のふんが落ちている。
- ・カモ対策としては、「のぼり」や、「テグス」などの対策が効果があると言われている。

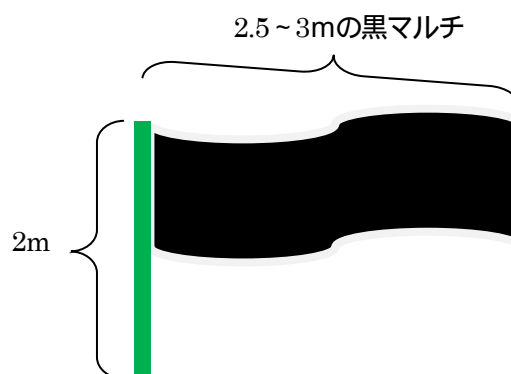


【カモによる食害】

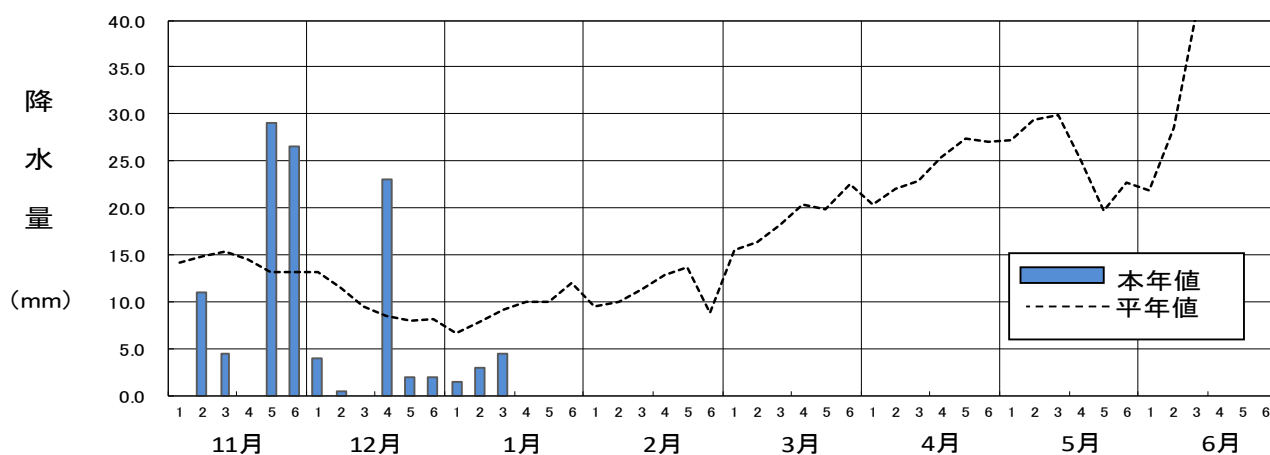
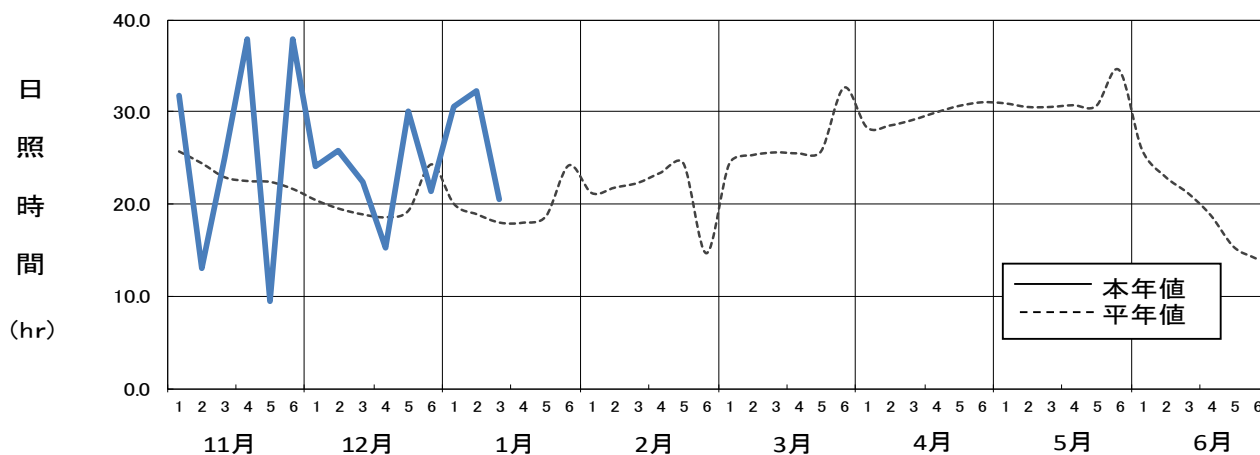
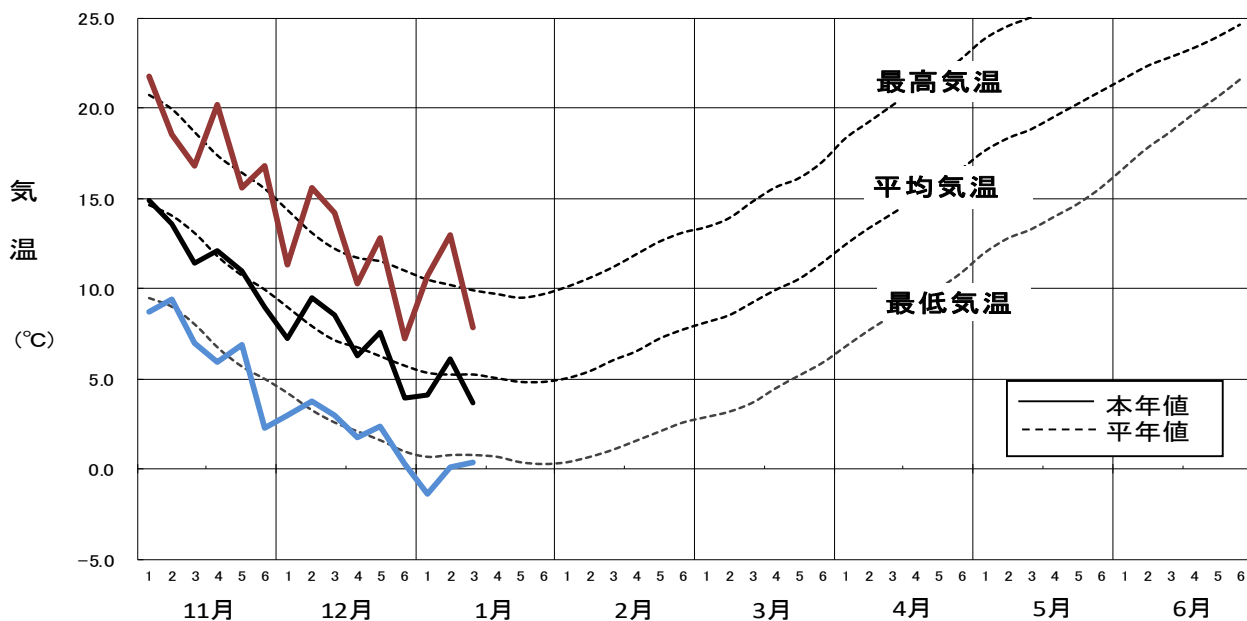
～「のぼり」の設置方法～

- ・2mの支柱 に、2.5 ～ 3.0mの黒色のマルチ をつるした「のぼり」を、
- ・10aあたり5本均等 に設置する。

「のぼり」は、マルチの長さや支柱の高さが短かったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減します。



令和4年産 麦類作付期間気象図
アメダス観測値(白石)



月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R3 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R3 (hr)	平年比 (%)
11月	12.3	12.0	-0.3	18.1	18.3	0.2	7.3	6.7	-0.6	86	71	83	140	155	111
12月	7.0	7.1	0.1	12.2	11.9	-0.3	2.4	2.2	-0.2	59	32	53	121	139	115

※平年値: 1991~2020